

令和2年度第18回

斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール選考結果について（お知らせ）

令和2年度第18回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクールには、山形県内はもとより県外・海外からも多数応募があり、小学校51校・2462首、中学校36校・3099首、高等学校40校・3949首、合計127校・9510首の作品が寄せられました。その全応募作品を対象に、第1次選考（入選200首）、第2次選考（優秀賞50首）、さらにこのたび（2月19日）、選考委員の大瀧保・栗木京子・田村元の3氏による最終選考会が開かれ、小・中・高校の各部門2首・計6首の最優秀賞（作品）が左記のとおり決定いたしました。

なお、最優秀賞の表彰式は、令和3年5月16日（日）開催予定の第47回斎藤茂吉記念全国大会の席上にて執り行います。また、最優秀作品・優秀作品を含む全入選作品を収めた「令和2年度第18回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール入選作品集」は、本年3月15日の発行を予定しております。

主催 山形県・上山市・上山市教育委員会・公益財団法人斎藤茂吉記念館

お問合せ先 公益財団法人斎藤茂吉記念館

〒999-3101 山形県上山市北町字弁天1421

TEL 023-672-7227 Fax 023-672-2626

令和2年度第18回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール最優秀賞作品（全六首）

【小学校の部】

おじさんもいとも来ないお正月じいちゃんずっともちをついている

上山市立南小学校

四年

いがらし 大地

12月かみの毛切ったバツサリと下に落ちてる私の思い出

上山市立南小学校

六年

たかはし 虹羽

【中学校の部】

けんかして口をきかない妹の机にそつとお菓子をのせる

上山市立北中学校

一年

たかはし 莉央

温かいココアのプルタブ開けたとき君との「またね」思い出す夜

仙台市立郡山中学校

二年

いとう 里菜

【高等学校の部】

母さんの車のエンジン音したらミルク多めの珈琲入れる

東京学館新潟高等学校

一年

せきや 洋人

しわくちやの手に触れ聞いた昔話風が伝える冬のおとずれ

山形県立山辺高等学校

二年

さかき 佐藤 碧

# 令和2年度第18回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール優秀作品（全五十首）

## ■小学校の部（十一首）

かたかい沼ぎ玉の山の真つ正面こうようの色くつきりとうつる  
じゃがいものはっぱがのびたうれしいな朝の水やり早くいかなきや  
ちちしほりミルクが出るか不安だな力を入れずやさしくにぎった  
おじさんもいとこも来ないお正月じいちゃんずっともちをついてる  
軽トラに積んだ新米たつぷりとお日様浴びたわらのおいだ  
12月かみの毛切ったバツサリと下に落ちてる私の思い出  
むずかしいおぼえられない八のだんほかのだんなら九九は楽しい  
アブラハヤせなが黒いかっこいいしつぽが黒と黄色のしましま  
試着した制服に身を包んだら見えた中学未来のわたし  
たいいくででんぐりがえりたのしいなあたまをつけたぐりりとまわる  
かまくらにえのぐでかいたためとはなをかわいかったよかえるになった

## ■中学校の部（十八首）

シャーペンで大事な所に印つけ「次は直す！」と楽器をかまえる  
帰り道しんしんと降る雪の中世界にたった一人みたい  
帰り道東藍色西朱色鼻をくすぐる秋刀魚の香り  
けんかして口をきかない妹の机にそっとお菓子のをせる  
柔道着重い重いと言いながら母が洗濯週に二回も  
新人戦声出し応援無しになり拍手の応援思い伝われ  
サックスを吹きおえて見る山ぎわの赤よ私の心の色よ  
本棚はわたし専用エアポート何処にゆこうか何をみようか  
休み時間集まる生徒ら見つけては先生いつも「密です」連呼  
夕焼けの光が入り目をつぶる相手の羽をうち返せない  
自肅中ネットの中で盛り上がるグループラインの着信響く  
亡き祖父の日記片手によみがえる元気な姿畑の記録  
ロープアークを鳴らし駆けてく歩道橋あと一音だけ君の近くに  
あの星は何かと祖父に聞きをれば延々話す夜の二時間  
温かいココアのプルタブ開けたとき君との「またね」思い出す夜  
みぎひだり縦横無尽に飛ぶたこに皆が<sup>みな</sup>今年の希望乗せてく  
祖母が言う微笑みながら「もう大人」もの寂しげな瞳と口調  
夜になり皆で輪になり花火する僕らの夏は終わりへ向かう

山形市立蔵王第二小学校	三年	永幡 碧之	ながはた きよゆき
上市市立上山小学校	二年	増川 朔仁	ますかわ さくと
上市市立中川小学校	四年	高橋 駿介	たかはし しゅんすけ
上市市立南小学校	四年	五十嵐 大地	いがらし だいち
	四年	武田 羽心	たけだ うた
	六年	高橋 虹羽	たかはし こはね
上市市立宮川小学校	二年	伊藤 理士	いとう りお
寒河江市立柴橋小学校	二年	寺山 裕登	てらやま ひろと
新庄市立沼田小学校	六年	小野 結愛	おの ゆま
郡上市立大和西小学校	一年	三浦 かりん	みうら かりん
郡上市立大和第一北小学校	一年	安田 感太	やすだ かんた
山形市立第七中学校	二年	長岡 希和	ながおか きわ
	三年	布施 柚姫	ふせ ゆずき
上市市立南中学校	三年	朝倉 結菜	あさくら ゆな
上市市立北中学校	一年	高橋 莉央	たかはし りお
	一年	山川 楓音	やまかわ かのん
新庄市立新庄中学校	一年	石山 和洸	いしやま わこ
	二年	佐藤 生芙姫	さとう いぶき
鶴岡市立鶴岡第一中学	二年	伊藤 美乃莉	いとうみのり
	二年	井上 紗菜	いのうえ さな
遊佐町立遊佐中学校	二年	長谷川 静華	はせがわ しずか
	二年	橋本 尚	はしもと しょう
	二年	畠中 和心	はたなか わこ
山形県立東桜学館中学校	三年	長瀬 花咲	ながせ はな
由利本荘市立本荘北中学校	二年	大場 有真	おおば ゆま
仙台市立郡山中学校	二年	伊藤 里菜	いとう りな
学習院女子中等科	一年	上村 凜紗	かみむら りさ
	三年	坂田 悠	さかた ゆう
大阪市立長吉六反中学校	三年	森本 時雨	もりもと しぐれ

■高等学校の部（二十一首）

雪を見て溜息がでる年になり喜んでいたあのころ思う  
朝目覚め窓を見ると銀世界クラス替えまで何日だろう  
気づいたよみんなと過ごす大切さ再会したら笑顔で会おう

亡き祖母のやわらかな笑み思い出す冬の朝日を浴びる干し柿  
しわくちやの手に触れ聞いた昔話風が伝える冬のおとずれ

おうち時間ふと感じるは弟のよく伸びた背と変わらない兄

今は無き母校にたたずむ桜の木枯れた木の葉がひらひらと舞う

降る雪に羽根を丸めて白鳥は風上を向く鳥屋野潟湖畔とやのがた

子供らの声去った後の公園に葉っぱ目にした雪だるま一つ

コロナ禍で急患搬送する父は帰宅出来ずに笹団子食す

教室のベランダ近い僕の席光の角度が四季変化する

深いしわ刻んだ祖父の表情の孤独を映すズームの画面

母さんの車のエンジン音したらミルク多めの珈琲入れる

下宿して通う高校初めての雪の匂いはマスクの向こう

リモートの授業続ける姉さんのマイクに入る僕の「ただいま」

散髪のはさみ繰る母の枝見つめて1人就職決める

曇り窓キャンバス代わり指で描く親友の顔隣に私

換気する車内の開いた窓からは初めて知ったこの街の匂い

白秋の声が聞こえる柳川の茜の道をひとり行くと

葉桜や皺ひとつない制服に二カ月遅れの期待をのせて

旋盤の切りくずとんだやけど跡今となっては努力の証

山形県立上山明新館高等学校

一年 鈴木 麻里子 すすき まりこ

一年 諏訪 聖司 すわ せいじ

三年 佐藤 彩夏 さとう あやか

山形県立山辺高等学校

二年 池田 和奏 いけだ わかな

二年 佐藤 碧 さとう あおい

山形県立東桜学館高等学校

一年 阿部 花菜 あべ はな

山形県立米沢工業高等学校

二年 池内 日向 いけうち ひなた

東京学館新潟高等学校

一年 小川 晃平 おがわ こうへい

一年 小澤 佳夏 おざわ かな

一年 加藤 夏実 かとう なつみ

一年 香村 修杜 こうむら しゅうと

一年 今野 敦稀 こんの あつき

一年 関谷 洋人 せきや ひろと

一年 中町 龍之介 なかまち りゅうのすけ

一年 原 悠輔 はら ゆうすけ

一年 渡部 一斗 わたべ かずと

三年 渋木 栞 しぶき しおり

学習院女子高等科

一年 池田 朱里 いけだ あかり

福岡県立伝習館高等学校

一年 松尾 優汰 まつお ゆうた

一年 水崎 結香 みずさき ゆいか

鹿児島県立鹿児島工業高等学校

二年 宮原 大河 みやはら たいが

# 令和2年度第18回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール入選作品（全二〇〇首）

## ■小学校の部（五十二首）

おばあちゃんわたしが行くとむかえてねにこにこわらうまた来てあげる  
 どうしようなにをかこうかわからないもきちせんせいたすけてくれよ  
 さびしいな陽里先生もういないもどつてきてね先生になったら  
 かたかい沼ぎ王の山の真つ正面こうようなの色くつきりとうつる  
 おじいちゃんとバトミントンとボール遊びむりしないでねでも遊びたいな  
 道歩くみんな口元かくしてる本当変わった当たり前の事

山形市立第七小学校

三年 山田 華音 やまだ かのん

山形市立蔵王第二小学校

一年 渡邊 惺哉 わたなべ せいや  
 二年 奥村 乃々花 おくむら ののか  
 三年 永幡 碧之 ながはた きよゆき  
 四年 工藤 くるみ くどう くるみ  
 五年 五十嵐 蒼人 いがらし あおと

上市市立上山小学校

グレンデで赤ちゃん二ひき見つけたよみどりですぐちいさいも虫  
 がつかつてせきがえのときドキドキだとなりのせきにくるのはだあれ  
 ピンク色あじさいの花見つけたよ雨つぶいっぱいキラキラ光る  
 じゃがいものはっぱがのびたうれいいな朝の水やり早くいかなきや  
 としょかんで本をいっぱいかりるんだ100さつこえたらしおりをもらう  
 よろこびの「よ」の字じょうずになるようにしせい正して思いをこめる  
 跳び箱で初めて七段跳んでみた着地する時ストレスだった  
 春の字がやっぱりかけないゆがんでるはあつとため息もう一度かく

上市市立中川小学校

ちちしぼり牛のちぶさをギョツギョツと上から下へにぎって出すよ  
 手をのばし牛に葉っぱをあげてみた細長い舌ざらざらしてた  
 ちちしぼりミルクが出るか不安だな力を入れずやさしくにぎった

上市市立南小学校

二年 高橋 真央 たかはし まお  
 四年 坂本 小雪 さかもと こゆき  
 四年 高橋 駿介 たかはし しゅんすけ

きつぷをね買うときボタンおすんだよまちがわないでちゃんとおせたよ  
 おじさんもいとも来ないお正月じいちゃんずつともちをついでる  
 かかしのね頭の部分作つたよ「美人」と先生ほめてくれたよ  
 グラウンド星座板持ちねころがるせまってくるよ夏の星空  
 雨の中ナメクジゆっくり歩いてるとなりの一びき友達ですか  
 きりの中到着したよロープウェイ山頂地ぞうは腰まで雪だ  
 軽トラに積んだ新米たつぷりとお日様浴びたわらのおいだ  
 三回目鬼滅の映画また泣いた何回観ても泣けてくるんだ  
 冬の空せせらぎ公園ひっそりとだれか来るのを待ってるベンチ  
 ばあちゃんが作る雑煮が恋しいがじいちゃん作の雑煮もおいしい  
 12月かみの毛切ったバツサリと下に落ちてる私の思い出

上市市立宮川小学校

二年 伊藤 理士 いたう りお  
 三年 三春 壮佑 みはる そうすけ  
 五年 木村 大翔 きむら ひろと  
 五年 中川 峻 なかがわ りょう

むずかしいおぼえられない八のだんほかのだんなら九九は楽しい  
 習い事バスケに行こうと思ってるこわいのたえてゆうきをだすぞ  
 文鳥がたまごを生んだまんまるだ家族が増えるわくわく増える  
 お母さん体調悪くて姉ちゃんとシチュー作つた思いをこめて

天童市立天童中部小学校

四年 水戸 英寿 みと ひでとし

コンブ巻き時間をかけて母さんが作れば光って宝石みたい

天童市立長岡小学校

六年 奥山 幸輝 おくやま こうき

切り通し歴史を感じ土を手に地層はまるでバームクーヘン  
 木枯らしの強さにひっくり返つたよ自転車のハウスふっ飛ばされた

寒河江市立柴橋小学校

六年 結城 瞬 ゆうき しゅん

アブラハヤせなかが黒いかっこいいしっぽが黒と黄色のしましま

尾花沢市立常盤小学校

二年 寺山 裕登 てらやま ひろと

大根をはん売したよ大きようれついっぱい来たぞえ顔あふれる

新庄市立沼田小学校

三年 三宅 彩夏 みやけ あやか

試着した制服に身を包んだら見えた中学未来のわたし

白鷹町立荒砥小学校

六年 小野 結愛 おの ゆま

お正月こまや羽子板対決だわたしが勝って妹ないた

四年 海老名 英 えびな よう

さか立ちエイ足がのびるぞきもちいい天じよう歩くぞさかさまに

こたつの中背中を丸めるこたつむり食べたみかんはもう五つ目だ

秋の暮夕日が空にうかんでる今にもわれる卵みたい

たいいくででんぐりがえりたのしいなあたまをつけたぐるりとまわる

秋見つけくりを見つけたいがむいてくつにちくちく足にささるよ

さか上がり足はグイッと手はギュッと空までとどけと体を上げる

ごんぎつねじゅうでうたれた兵十に栗やマツタケもうあげたくない

手かじかむ寒さにたえてじいちゃんと畑の野菜掘り出し食べた

白銀のふかふかベット大の字に空でじいちゃん笑ってるかな

とんぼとりそいやとあみをふりまわすとれたよとんぼにがしてあげる

カシヤッカシヤ静かになるよシヤッター音冬の時間を切り取ったみたい

かまくらにえのぐでかいためとはなをかわいかったよかえるになった

雪とけて一人残るは雪だるま「こわさないで」と私に語る

### ■中学校の部（六十六首）

会えぬ間に小さくなった祖母の顔されど変わらず私を励ます

「ごめんなさい」その一言を飲み込んでつるべ落としに一日がゆく

「関係ない」その考えがある限りコロナは絶対なくはならない

シャーペンで大事な所に印つけ「次は直す！」と楽器をかまえる

帰り道しんと降る雪の中世界にたった一人みたい

カチャカチャとスタートブロックセットするピストル待つ間鳴くセミの声

雨降りの田んぼの中で輝いたぬれでも負けない黄金の稲

教室でみんなの心を一つにし音も一つにチーム活動

帰り道東藍色西朱色鼻をくすぐる秋刀魚の香り

空見たら夕焼け色に染まってる赤とんぼたち群れて飛びゆく

響き合う秋の夕暮れむらさきに染まった空を映すサックス

祖父の指ゴツゴツとして傷だらけ畑の恵みを育んだ指

けんかして口をきかない妹の机にそっとお菓子をのせる

柔道着重い重いと言いながら母が洗濯週に二回も

新人戦声出し応援無しになり拍手の応援思い伝われ

ソプラノの高音不安でいざ本番練習よりも上手く歌えた

「練習です」電話の相手はおばあちゃんスマホデビューして笑顔が増える

白鷹町立荒砥小学校

四年 布施 瑛大

鶴岡市立黄金小学校

六年 難波 結菜

鶴岡市立鼠ヶ関小学校

六年 佐々木 杏

郡上市立大和西小学校

一年 三浦 かりん

二年 笠野 美緒

三年 石井 葵

四年 和田 勘助

郡上市立大和南小学校

五年 山田 萌斗

六年 大坪 美優 緩

郡上市立大和北小学校

一年 河合 悠陽

二年 高橋 風香

三年 安田 感太

太良町立多良小学校

五年 富永 千品

山形市立第五中学校

二年 加藤 小夏

山形市立第七中学校

一年 落合 彩夏

二年 長岡 希和

三年 布施 柚姫

山形市立蔵王第二中学校

一年 伊東 新

上市市立南中学校

一年 大石 健人

一年 佐藤 優月

三年 朝倉 結菜

三年 五十嵐 万菜佳

三年 立田 楓果

上市市立北中学校

一年 尾形 茉佑子

一年 高橋 莉央

一年 山川 楓音

二年 石山 和洗

二年 高橋 想呂

三年 月田 乃愛

大江町立大江中学校

二年 工藤 レア

新庄市立新庄中学校

一年 伊藤 吉宗

二年 栗田 菊湖

二年 笹 大夏

二年 佐藤 生芙姫

二年 堀内 文代

二年 涌井 東吾

三年 叶内 啓斗

ふせ えいと

なんば ゆな

ささき あん

みうら かりん

かさの みお

いしい あおい

わだ かんすけ

やまだ めいと

おおつぼ みゆる

かわあい ゆうひ

たかはし ふうか

やすだ かんた

とみなが ちあき

かとう こなつ

さとう かいと

おちあい あやか

ながおか きわ

ふせ ゆずき

いとう あらた

おおいし けんと

さとう ゆづき

あさくら ゆな

いがらし まなか

たつた ふうか

おがた まゆこ

たかはし りお

やまかわ かのん

いしやま わこ

たかはし ころこ

つきた のあ

くどう れあ

いとう よしむね

くりた とうこ

ささき ひろか

さとう いぶき

ほりうち ふみよ

わくい とうご

かのうち けいと

ありがとうあふれる思い今日こそは文字で伝える十五になる日

感染者差別を受ける人々へ批判する声心に刺さる

ボールの音はダムダム、バスシユの音はキュシキュシ体育館に鳴り響く音  
本棚はわたし専用エアポート何処にゆこうか何をみようか  
休み時間集まる生徒ら見つけては先生いつも「密です」連呼  
夕焼けの光が入り目をつぶる相手の羽をうち返せない

向かい風姿勢ひくくしチャリをこぐ疲れた僕と元気な相方  
背が小さいコンプレックスつかれて外出愛用厚底シューズ  
自粛中ネットの中で盛り上がるグループラインの着信響く  
亡き祖父の日記片手によみがえる元気な姿畑の記録

夕方の部活が終わり「また明日」その一言は明日へのエール  
初めてのあけおめLINE祖父母からどこで区切るの悩む孫かな  
ローファーを鳴らし駆けてく歩道橋あと一音だけ君の近くに

咳ひとつした瞬間ににらまれるそんな冷たいご時世なのか

あの星は何かと祖父に聞きをれば延々話す夜の二時間  
百均で虫のおもちやを購入し父驚かすいたざら娘

温かいココアのプルタブ開けたとき君との「またね」思い出す夜

母親に反抗してもかなわずになんか悔しいこのもどかしさ

初夢で推しの彼女になった夢すごく幸せ一生寝てたい

みぎひだり縦横無尽に飛ぶたこに皆が今年の希望乗せてく  
消しゴムを拾ってくれたそれだけで隣の君に頬を染めるの  
年賀状今の時代に手書きこそ送ってうれしもらってうれし  
冬牡丹寒さ凌ぎに藁囲い私も一緒にいれてほしいな  
夢を追い旅立つ兄へ年賀状私も今年あなたのように  
かるたとり家族なれども容赦せず「好きな一首は逃すものか」と  
オリオンの夜空見上げて旅に出る銀河鉄道星をぬいつつ  
弟の革ぐつとなり並んでるいつのまにやら大きくなって  
マフラーに顔を埋めて立ちつくす朝のホームの女子高校生  
面会をどうしてもと家族愛コロナ引き裂く家族の温もり  
祖母が言う微笑みながら「もう大人」もの寂しげな瞳と口調  
いつもなら面倒臭い帰省でも今年はずか行きたかったな  
結露した窓の向こうの広い空小さく光るオリオンの星  
静けさの中で二人の肩の距離はなれ縮まり冬空の下

始業式向かう途中の桜の木去年はピンク今年は緑

梅雨の時期ほんのわずかな晴れの日はコロナの中に差し込む希望

田に積もる堅雪踏んで登校す冬の匂いにつつまれて行く

「バカだな」とからかう言葉は出てきても肝心の「好き」は行方不明だ  
手袋をわざと忘れて君の手を二人で帰る淡い空色

夜になり皆で輪になり花火する僕らの夏は終わりへ向かう

耳の水なかなか取れぬもどかしさ残る塩素の夏のおい

五月雨に打たれて揺れる紫陽花の溶けだしそうな儂い藍色

新庄市立萩野学園

三年 加藤 彩希 かとう さき

鶴岡市立鶴岡第一中学校

二年 五十嵐 仙 いがらし たかし  
二年 板垣 大輝 いたがき こうき  
二年 伊藤 美乃莉 いたうみのり  
二年 井上 紗菜 いのうえ さな  
二年 長谷川 静華 はせがわ しずか

遊佐町立遊佐中学校

二年 阿部 太惺 あべ たいせい  
二年 高橋 颯人 たかはし はやと  
二年 橋本 尚 はしもと しょう  
二年 畠中 和心 はたなか わこ

山形県立東桜学館中学校

一年 庄子 暖人 しょうじ はると  
三年 丹野 稜 たんの りょう  
三年 長瀬 花咲 ながせ はな

むつ市立大湊中学校

二年 木下 涼香 きのした すずか

由利本荘市立本荘北中学校

二年 大場 有真 おおば ゆま  
二年 藤澤 にじ ふじさわ にじ

仙台市立郡山中学校

二年 伊藤 里菜 いたう りな

須賀川市立第三中学校

二年 金澤 優希 かなざわ ゆうき

人間市立黒須中学校

二年 堤 友梨亜 つつみ ゆりあ

学習院女子中等科

一年 上村 凜紗 かみむら りさ  
一年 栗原 汐里 くりはら しおり  
一年 高瀬 幸々 たかせ ここ  
二年 浦部 はな うらべ はな  
二年 小林 桃子 こばやし ももこ  
二年 篠田 瑠璃奈 しのだ るりな  
二年 鈴木 彩心 すずき あこ  
二年 高橋 和佳 たかはし わか  
二年 中野 美優 なかの みゆう  
三年 越川 結生 こしかわ ゆい  
三年 坂田 悠 さかた ゆう  
三年 田中 怜那 たなか れな  
三年 森田 緋奈美 もりた ひなみ  
三年 山下 真白 やました ましろ

吉祥女子中学校

二年 加藤 茉青 かとう まお  
二年 川口 文緒 かわぐち ふみお

南砺市立井口中学校

一年 吉田 柚月 よしだ ゆづき

五條市立五條東中学校

二年 佐藤 舞 さとう まい  
二年 福岡 柊侑 ふくおか しゅう

大阪市長吉六反中学校

三年 森本 時雨 もりもと しぐれ

香川大学教育学部附属高松中学校

二年 谷水 にご たにみず にご  
二年 増田 栞奈 ますだ かな

■高等学校の部（八十二首）

君の街染まっただろうか白銀に逢いたい気持ち積もる白雪

雪を見て溜息がでる年になり喜んでいたあのころ思う  
朝目覚め窓を見ると銀世界クラス替えまで何日だろう  
毎日が同じことのくり返し今日は綺麗な夕日が見えた  
くだらない話で君と笑い合いなんでもない日こそ愛おしい  
見渡せば真っ白な雪九人で年始の作業灯ろうづくり  
雪の朝送っていくよと母の声こんな時だけ甘える私  
気づいたよみんなと過ごす大切さ再会したら笑顔で会おう

亡き祖母のやわらかな笑み思い出す冬の朝目を浴びる干し柿  
しわくちやの手に触れ聞いた昔話風が伝える冬のおとずれ  
おうち時間ふと感じるは弟のよく伸びた背と変わらない兄  
ぶつけあうそれぞれの色を出す舞台混ざり合う声今は恋しい  
空高く眩しいほどに高くても青くはなかつた僕たちの春

今は無き母校にたたずむ桜の木枯れた木の葉がひらひらと舞う  
毎回の頭髪点検注意されアイデンティティーを見失つてく

じいちゃんの相棒だったコンバイン稲の黄金はじいちゃんの輝き

着物地の褪せしお手玉香馨る振りて聞こゆる祖母の唄かな

雪積もり雪かきしてもまた積もりきりがないのでお茶を一杯  
様々な色塗り重ねカンバスに心を写し寒夜が明ける

校庭で彼の笑顔にゆるむ頬ほのかな記憶手繋ぎ鬼よ  
時戻す力があるなら一年前へ今なら素直に言えるごめんね  
振り返り笑顔のあなたと目があつたこの一瞬が続けばいいのに

朝六時鳴つたアラーム一度止め二度寝三度寝次母の声

歩いて明かりが見える二階から通つてみたいなピアノ教室  
干し柿が駅のホームにつるされてつめたい風にゆらされている

芝が照りボトルの水が熱くなりそれでもみんなうまいと叫ぶ  
いつもの道やさしい色に染まりゆく白い絵の具が落ちてくように  
就職の試験に向かい歩く道頭に響く心臓の音

旋盤の作業は集中必要だ鉄と精神互いに削る

降る雪に羽根を丸めて白鳥は風上を向く鳥屋野潟湖畔  
子供らの声去つた後の公園に葉っぱ目にした雪だるま一つ  
服につくチョークの粉をはらうときつい先生を姉にみている  
コロナ禍で急患搬送する父は帰宅出来ずに笹団子食す  
コロナ禍の君のマスクの色変わる花柄マスクに春を想つた  
教室のベランダ近い僕の席光の角度が四季変化する

深いしわ刻んだ祖父の表情の孤独を映すズームの画面  
君の居るページばかりを開くから癖ついている卒業アルバム  
コロナ禍で自習時間がふえた分学ぶ理由を自分に問うた  
母さんの車のエンジン音したらミルク多めの珈琲入れる

山形県立山形西高等学校

一年 平田 千乃 ひらた ちの

山形県立上山明新館高等学校

一年 鈴木 麻里子 すずき まりこ  
一年 諏訪 聖司 すわ せいじ  
一年 渡邊 百香 わたなべ ももか  
二年 渡辺 鈴彩 わたなべ すずな  
三年 菅野 采音 かのん ことね  
三年 小林 霞 こばやし かすみ  
三年 佐藤 彩夏 さとう あやか

山形県立山辺高等学校

二年 池田 和奏 いけだ わかな  
二年 佐藤 碧 さとう あおい

山形県立東桜学館高等学校

一年 阿部 花菜 あべ はな  
一年 金村 要 かなむら かなめ  
二年 齋藤 愛香 さいとう まなか

山形県立米沢工業高等学校

二年 池内 日向 いけうち ひなた  
二年 平山 莉玖 ひらやま りく

山形県立米沢商業高等学校

一年 名古屋 朱乃 なごや じゆの

山形県立長井高等学校

二年 四釜 未稀 しかま みき

山形県立荒砥高等学校

一年 竹田 典広 たけだ のりひろ  
二年 鈴木 優斗 すずき ゆうと

山形県立酒田光陵高等学校

二年 池田 栞望 いけだ かの  
二年 石垣 茉生 いしがき まお  
二年 小松 優衣 こまつ ゆい

山形県立鶴岡工業高等学校

二年 佐藤 瑞起 さとう みずき

山形県立上山高等養護学校

一年 山田 樹奈 やまだ じゆな  
二年 志鎌 礼隆 しかま のりたか

山形明正高等学校

三年 伊藤 拓翔 いたう たくと  
三年 菅 雄大 かん ゆうだい  
三年 小松 心 こまつ ところ

岩手県立盛岡工業高等学校

一年 福田 光 ふくだ ひかる

東京学館新潟高等学校

一年 小川 晃平 おがわ こうへい  
一年 小澤 佳夏 おざわ かな  
一年 小野 雛子 おの ひなこ  
一年 加藤 夏実 かとう なつみ  
一年 川端 脩平 かわばた しゅうへい  
一年 香村 修杜 こうむら しゅうと

東京学館新潟高等学校

一年 今野 敦稀 こんの あつき  
一年 坂爪 愛 さかづめ ところ  
一年 櫻田 大希 さくらだ だいき  
一年 関谷 洋人 せきや ひろと

モヤモヤを吐き出す余白があったなら進路調査のA4プリント  
下宿して通う高校初めての雪の匂いはマスクの向こう  
銀杏切り大根人参薄切りの祖母の豚汁囲む雪の日  
リモートの授業続ける姉さんのマイクに入る僕の「ただいま」  
日本海夕日の街で生きて来たいつか日の出の街に生きたい  
祖母ちゃんのいない正月初めてで母の味付け迷走している  
雪化粧した新潟の街並を眼に焼きつけて上京する兄  
散髪のはさみ繰る母の技見つめて1人就職決める  
君を待つ粉雪が舞う帰り道真っ白になる赤いマフラー  
バスで寝る私の眠りを起こすほど雪の白さは光を放つ  
曇り窓キャンバス代わり指で描く親友の顔隣に私  
母子手帳「手綱たづなこんにやく作った。」や「上手!」の文字は母の愛情  
朝五時のスコップ雪かきする音は離れて暮らす祖父だったんだ  
孫すらも忘れてしまった祖母ちゃんが忘れないのは大海の味  
台風は進路決まっつうらやましい自分の進路いずこへ決める

将来を自粛期間に考えた答えは出ない時間が足りない

換気する車内の開いた窓からは初めて知ったこの街の匂い  
初めての徹夜は勉強ではなくて冬空見つめて流星観察  
マスクとり水筒越しに目が合った初めて見れた隣の席の子  
髪切って教室のドア開ける時少しドキドキみんなの反応  
葉が落ちて赤く熟せる柿の実にスズメ集まり競って歌う

新しき命が生まれ声響く周囲の微笑み君を包んで  
寝たきりの祖母の近くに祖父の写真祖母の視線がそこから動かず

風にのりふわりと香る金木犀どこにいるのと探してしまう

つらいとき気づいてくれる友がいて何も聞かずそばにいてくれる

母親の太りぐあいに安堵する痩せ細らずにずっと元気で  
落ち着いた遺影の曾祖母でも私悪戯好きな婆ちゃん知ってる

白秋の声が聞こえる柳川の茜の道をひとり行くとき  
葉桜や皴せむぎひとつない制服に二カ月遅れの期待をのせて

通学路マフラー手袋装備して冬將軍と真っ向勝負  
懐おもい出す友と二人で電車乗り棒占いで長崎さるく  
大村で生まれ育ち気付くことゆでぴー食べると止まらなくなる  
坂道を登れば一面緑色鼻を涼めるお茶の葉そよぐ

一瞬を逃したくないとシャッター押すその一秒が形になる  
丁寧にぼくにつないだこのボール一点に変えるみんなのために  
汗しみた実習服で練習を重ねた自分信じて走る  
溶接の火花散りゆく俺の意地こいつと共に夢追いかけて  
汗だくでにぎりつづけたラケットでまめも破れた夏の練習  
面接の特訓の日々思い出し力を信じて扉をたたく  
就職後一度も帰らぬ独身のいとこのような職に就きたい  
ビビッと竿先伝わる生命の躍動感に闘志みなぎる

朝起きてあたりまえにあるごはんには祖母の日常の営みがある  
旋盤の切りくずとんだやけど跡今となっては努力の証

東京学館新潟高等学校

一年	千代	麻耶香	ちよ	まやか
一年	中町	龍之介	なかまち	りゅうのすけ
一年	灰野	滯	はいの	れい
一年	原	悠輔	はら	ゆうすけ
一年	圓山	瑛斗	まるやま	あきと
一年	山形	竜矢	やまがた	りゅうや
一年	吉井	晴	よしい	はる
一年	渡部	一斗	わたべ	かずと
二年	佐藤	愛香	さとう	まなか
三年	角田	璃奈	かくた	りな
三年	渋木	栞	しぶき	しおり
三年	高山	実和子	たかやま	みわこ
三年	山際	美空	やまぎわ	みそら
三年	横山	健太郎	よこやま	けんたろう
三年	奥平	輝	おくだいら	ひかる

東京都立府中高等学校

二年	鴨志田	湧吾	かもしだ	ゆうご
----	-----	----	------	-----

学習院女子高等科

一年	池田	朱里	いけだ	あかり
一年	川崎	碧	かわさき	みどり
一年	中村	紗弥子	なかむら	さやこ
一年	成田	和佳奈	なりた	わかな
一年	蓮尾	まりほ	はすお	まりほ

昭和女子大学附属昭和高等学校

一年	小宮	知菜乃	こみや	しなの
二年	角田	光穂	かくた	みほ

文化学園長野高等学校

二年	浅野	京香	あさの	きょうか
----	----	----	-----	------

愛知県立犬山高等学校

一年	ラージブート	さきならーじぶーと	さきな	
----	--------	-----------	-----	--

徳島県立脇町高等学校

二年	佐藤	光修	さとう	あしゆう
二年	中田	蒼	なかた	そう

福岡県立伝習館高等学校

一年	松尾	優汰	まつお	ゆうた
一年	水崎	結香	みずさき	ゆいか

長崎県立大村高等学校

一年	三浦	珠希	みうら	たまき
一年	水本	陽菜	みずもと	ひな
二年	秋吉	桃佳	あきよし	ももか
二年	西川	真子	にしかわ	まこ

鹿児島県立鹿児島工業高等学校

二年	有嶋	英	ありしま	こころ
二年	石川	皓	いしかわ	ひかる
二年	籍	胤	せき	いん
二年	中納	広明	ちゅうのう	ひろあき
二年	徳重	聡	とくしげ	さとし
二年	俊岡	仙斗	としおか	せんと
二年	林	祐太	はやし	ゆうた
二年	堀之内	杜馬	ほりのうち	とうま

鹿児島県立鹿児島工業高等学校

二年	宮内	清春	みやうち	きよはる
二年	宮原	大河	みやはら	たいが